

受講に関するご案内

お申込み方法 (注)メール、電話でのお申込みはお受けしていません。

WEBサイト

同志社大学東京オフィスホームページの申込みフォームをご利用ください。
同志社大学東京オフィスホームページ>講座のお申込み
*スマートフォンからも申込みができます。

同志社大学東京オフィス [検索](#)

FAX

同封の「受講申込書」をご利用ください。
*受講申込書は受付開始以後にお送りください。受付開始前にお送りいただいたものは「無効」といたします。受付開始直後には電話回線が混みFAXが届きにくくなるケースがあります。可能な限りWEBサイトからお申込みください。

お申込み受付・受講確定 各講座にお申込み締切り日を設定しています。該当日までに定員以上のお申込みがあった場合は、抽選を行い、受講生を決定します。

お申込み締切り日は、各講座の開催概要欄でご確認ください。

オンデマンド(ビデオ録画データ)による受講について

同志社講座は、同志社大学東京サテライト・キャンパスにおいて対面形式で開講いたします。ただし、不測の事態の際にオンライン形式に変更する場合があります。また、受講生のご事情によりオンライン形式をご希望される場合は「オンデマンド受講」でご受講いただけます。

■ オンデマンド受講について
オンデマンド受講とは、会場での講義を録画し後日に受講用のURLと配信資料をメールにてお送りするものです。講座日に会場に来ることができない場合にご利用ください。

その他のお願い

- 受講日当日は、受付にて「受講票」をご提示いただけます。
- 受付は講座開始の30分前から開始いたします。
- 講義中は携帯電話の電源を切るなど、他の受講者にご迷惑とならないようご注意ください。
- 講義の録画、録音、写真撮影は禁止です。(講師が許可した場合

抽選結果は受講生には受講票を、受講いただけない方には結果通知を郵送します。該当の締切り日に満席でない場合は、満席になるまで受付いたします。(注)欠員待ちは行っておりません。

受講料のお支払い

- 受講料は初回の受付でお支払いください。
- 各講座とも受講料は全回分(一括)です。
- 会場受付でのお支払いは現金のみです。

■ いったん納入された受講料は返還いたしませんのでご注意ください。
■ 初回をオンライン形式で受講される場合は、事前振り込みが必要です。該当の方には、別途ご案内を差し上げます。

キャンセル お申込み後に受講を取りやめたい場合は、同志社大学東京オフィスに電話にてお知らせください。

修了証 受講の講座を全回出席された方に修了証をお渡しいたします。

教材 講師指定の教材(書籍など)を各自でご用意いただく場合があります。講座の開催概要欄でご確認ください。

同志社講座2023年度秋学期

同志社講座は、同志社大学の教員と活躍する卒業生が講師を務め、どなたでも受講することができる講座です。講座のテーマは宗教から見つめる現代の課題、日本の文化・歴史を背景とする教養、世界各地の動きと課題、サイエンス分野の最新研究成果と多様です。同志社大学が培ってきた研究の成果をお届けしています。

お申込み 受付開始 **2023年8月21日(月) 10:00～**

WEB 同志社大学東京オフィス 検索 FAX **03-6228-7262**



スマートフォンからもお申込みができます。QRコードを読み取るとお申込みフォームに到達します。

受付開始前に送信されたものは無効となりますのでご注意ください。

3 講座統一お申込み締切り 抽選 受講票の発送

9月14日(木) 17:00 9月15日(金) 9月20日(水)以降
満席でない場合は満席になるまで受付いたします。

個人情報の取り扱いについて

お申込みに際してご提供いただく個人情報は、個人情報の保護に関する法律及び本学が定める「個人情報保護の基本方針」、「同志社個人情報保護規程」等に基づき、適正に取り扱います。お預かりした個人情報は、同志社講座ならびに同志社大学からのご案内に利用させていただき、ご本人の同意なく、法令上認められている次の場合を除いて第三者に提供いたしません。

- ご本人の同意を得た場合
- 利用目的の達成に必要な範囲内で、同志社大学の業務委託先(再委託先を含みます)に個人情報の取扱いの全部又は一部を委託することに伴って当該個人情報を提供する場合
- 上記の他、法令に基づき開示、提供することが求められた場合

同志社大学 東京オフィス

平日 9:00～17:00

〒104-0031

東京都中央区京橋2丁目7番19号
京橋イーストビル3階

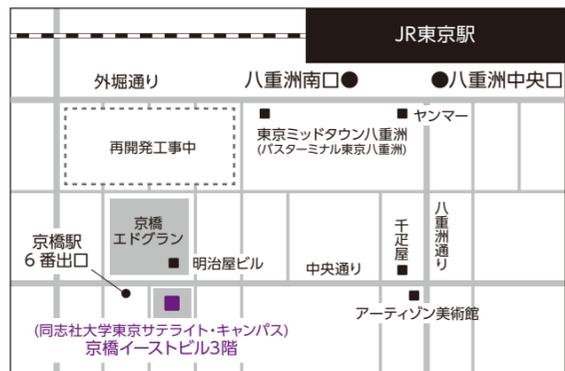
(中央通り沿い) 明治屋ビル向かい 1階にみずほ銀行があります)

TEL :03-6228-7260

FAX :03-6228-7262

E-mail: ji-toky1@mail.doshisha.ac.jp

<https://tokyo-office.doshisha.ac.jp/>



- JR 東京駅 八重洲南口 徒歩6分
- 東京メトロ有楽町線 銀座一丁目駅7番出口 徒歩5分
- 東京メトロ銀座線 京橋駅 6番出口 徒歩1分
- 都営浅草線 宝町駅 A7番出口 徒歩2分

2023年度 秋学期 同志社講座



Tokyo Satellite Campus, Doshisha University

源氏物語を楽しく読む「夕顔の巻を読む」

源氏物語54帖の中でも夕顔の巻はとても人気がある、ミステリアスな巻です。たとえば最後まで光源氏と夕顔の君は、互いに素性を明かしません。けれども文章の端々から、二人の人物や環境などが垣間見えます。あからさまには言わないが分かる人には分かる、これは現代の京ことばにも当てはまります。京都人の見方で読み進めてみましょう。

講師	
	
いわつぼ たけし 岩坪 健	
同志社大学 文学部 教授	
文学博士。1957年京都市生まれ。1981年京都大学文学部国語学国文学科卒。1989年大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。1991年「源氏物語古注釈の研究－中世源氏学の流れ－」で文学博士。同志社大学宮廷文化研究センター長。受賞歴：1989年「源氏物語の二段階伝授について－河内方と四辻善成・一条兼良をめぐる」で第16回日本古典文学会賞受賞。2014年「源氏物語の享受 注釈・梗概・絵画・華道」で第15回紫式部学術賞を受賞。著書：『光源氏とティータイム』（新典社/2008）、『ウラ日本文学－古典文学の舞台裏－』（新典社/2011）、『錦絵で楽しむ源氏絵物語』編著（和泉書院/2012）、「源氏物語といけばな」（平凡社/2019）、「三玉挑事抄」注釈（和泉書院/2019）など多数。	

講義日	
10/12(木)、11/9(木)、12/14(木)、1/11(木)、2/15(木)、3/14(木)	

これからの「夕顔の巻」読みどころ



同志社大学図書館所蔵 源語No.8

夕顔は光源氏が連れ出した廃屋で、物の怪に取りつかれて急死します。その凄まじい雰囲気の詳細は屈指の名文で、鬼気迫ものがあります。光源氏と夕顔の仲は秘密にされていたので、お葬式も極秘に執り行われました。ところが困ったことに、二人とも自分の素性を明かさなかったため、供養する死者の名前が分かりません。このままでは夕顔は往生できません。さらに難儀なことに長い間、喪に服さないといけません。その間は室内に閉じこもり外出してはならないので、宮仕えもできません。光源氏はこの問題をいかに乗り越えたのでしょうか。今までは父の桐壺帝などに助けられてきました。しかし今回は、誰にも相談できません。青年貴族が生まれて初めて直面した困難を、皆さんと共に読み進めていきましょう。

和歌に学ぶ「万葉植物の歌を鑑賞する」

今年度前期の朝ドラ『らんまん』では、万葉集に歌われた植物がたびたび登場しています。万葉集には、後の時代の歌集に比べてもとりわけ数多くの植物が記されており、歌には、万葉びとの植物に対するこまやかな観察眼が反映されています。万葉びとが当時の科学的なまなざしを向けた植物が、どのように歌に表現されているかを探っていきます。

講師	
	
かきみ しゅうじ 垣見 修司	
同志社大学 文学部 教授	
博士(文学)。1973年奈良県出身。1996年同志社大学文学部文化学科国文学専攻卒。関西大学大学院文学研究科 国文学専攻修了。研究分野:上代日本文学。『万葉集』巻十三の長歌、記紀歌謡および上代語を主な対象とする。高等学校教諭を経て、2009-2012 高岡市万葉歴史館研究員。2013年より同志社大学准教授。2017年より現職。2011年第4回萬葉学会奨励賞受賞。著作[著書]『万葉植物の歌 鑑賞事典』（共著、和泉書院/2023）、『万葉集巻十三の長歌文芸』（和泉書院/2021）、[論文]「上代のウルハンシとウツクシ」（『国語と国文学』99巻11号/2022）、「上代の「趨」字に関する覚書―「趨」との通用関係に関わって」（『高岡市万葉歴史館紀要』33号/2023）。	

1回 10/19(木)	「夏の植物」
梅雨の頃から現れる植物から観ていきます。あじさいは、今のあじさいと全く同じというわけではなさそうです。梅雨明けが近づくと艶やかなピンク色の花を咲かせる合歡も面白く歌われます。水生植物では黄色い花をつけるあざさ、そしてぬるぬるとしたぬめりのあるジュンサイもぬなはという名で登場します。	

2回 11/16(木)	「初秋の植物」
山上憶良の「萩の花 尾花葛花 なでしこの花 をみなへし また藤袴 朝顔の花」は秋の代表的な七種の花を詠んだ歌です。秋の庭は宴を楽しむ万葉びとをとりわけ楽しませたようで、萩の花は万葉植物では最も多く歌われています。夏の間に鬱蒼と葉を茂らせる葛も美しい花が歌に詠まれています。	

3回 12/21(木)	「中秋から冬の歌」
晩秋からの季節は木々の紅葉が歌われます。枯れた葉が木に残る栂も万葉びとには気になったようです。雪や霜が降る景色の中では、笹や竹のほか、山橘やしらかしも景物として取り上げられています。冬に歌われた植物は必ずしも多くないですが、松や橘などの常緑樹は冬の間も緑のままである点で冬に称えられる植物です。	

4回 1/18(木)	「春の植物」
年頭は春の植物の歌を取り上げます。これからの季節、正月の梅にはじまり、椿、あしび、桃、桜などが咲いていきます。柳やわらびの芽吹き、すみれやうはぎなど食料となる若菜も詠まれます。春雨や霞とともに、春に再び活動を始める植物たちが登場する歌がどのような背景を持つかという点も確認していきます。	

5回 3/21(木)	「初夏の植物」
晩春から初夏の季節に登場してくる植物を取り上げます。大伴家持と大伴池主の友情をつなぐ山吹の花や、ほととぎすと取り合わせて歌われる卯の花や藤の花。そして大宰府に赴任していた大伴旅人がふるさと明日香を思い出した茅花も穂を出します。古代の衣服や布との関わりも深い、麻が植えられ、桑が実をつけるのもこの時期です。	

日本近現代史に学ぶ「21世紀の天皇制と皇室」

天皇制はこれからどのように変化するのだろうか。あるいは皇室はいかなる形で社会に位置付けられるのだろうか。改めてその存在と意味を考えてみたい、というのがこの講座の目的である。同時に過去の歴史を振り返りつつ、現在を見つめ、さらにその将来を予想しようとの狙いも含んでいる。天皇制は私たち国民の意識や生活規範と重なり合っているが故に、正面からきちんと見据えながら、幾つかの視点をもって歴史の視点で考えてみるべきだと思う。

講師	
	
ほさか まさやす 保阪 正康	
ノンフィクション作家 評論家 日本近現代史研究者	
1939年札幌市生まれ。1963年同志社大学文学部社会学科卒。1972年「死なう団事件」で作家デビュー。2004年個人誌『昭和史講座』の刊行をはじめ一連の昭和史研究により菊池寛賞受賞。2017年「ナショナルリズムの昭和」で和辻哲郎文化賞を受賞。近現代史の実証的研究を続け、これまで約4000人の人々に聞き書き取材を行っている。立教大学社会学部兼任講師、国際日本文化研究センター共同研究員などを歴任。現在、朝日新聞書評委員などを務める。近著『昭和史の核心』（PHP研究所/2022）、『Nの廻廊 ある友をめぐるきれぎれの回想』（講談社/2023）、文藝春秋で『日本の地下水脈』連載中。ラジオ出演月曜「NHKラジオ・アーカイブス ～声でつづる昭和人物史』。	

1回 10/20(金)	「天皇制とはどういう意味か」
日本の天皇制は、ヨーロッパなどの皇帝などとは多くの点で異なっている。つまり権力は武家政治が担うにしても、権威をもってこの国の文化、伝統を守るという役割を果たしてきた。むしろそのバランスが歪んだ時もあったが、本質的にはこの分立が日本の知恵ともいべき遺産であった。それがどのように崩れたのか、そのプロセスを改めて整理した上で天皇制のあり得べき姿を見つめてみたい。	

2回 11/17(金)	「明治維新と天皇制の関係」
日本の明治維新は極めて曖昧な形で始まった。権力と権威の分立を壊し、権力のもとに権威を引き込んだ。そうしなければ政権の掌握が行えないという政府の要人たちは、新しい組み立てに各種の見方を抑える形で、大日本帝国憲法を作り、国家の行く末を決めていった。天皇を統治権、統帥権の総覧者として存在させることで、実際には臣下のもがその権力を振るうことになった。そこに矛盾が生まれた。	

3回 12/8(金)	「近代史の中の天皇制を考える」
大日本帝国が目指したのは軍事を主導とする軍事大国であった。そのために軍人が極端なまでに支配の中心に立ち、軍事で一切を動かしていくという、極めて危うい国家になった。天皇はその意思がいかなるものであったにせよ、ピエロのような役割を演じられていかなければならなかった。こういう天皇を分析することは、明治天皇と睦仁という二つの側面で見えていく必要がある。皇室を見つ、神権化天皇の実態を探ってみる。	

4回 1/19(金)	「現代史と新感覚の人天皇制」
平成の天皇は、それまでの天皇の行動指針を大きく変えた。「国民とともにある」を自らの人間天皇の第一要件とした。その意味では、新時代の天皇像を自らも作り上げていく意思を示したとも言えるように思う。加えて大日本帝国憲法下のルール(終身在位)をあっさりと変更したものになった。そういう試みは天皇の主體的な判断とされるのだが、ここにきて天皇も明確に意思を表すことが、当然の世論作りが進められた。	

5回 2/16(金)	「21世紀の天皇、そのあり得べき姿と皇室」
21世紀の天皇の姿はむしろ19、20世紀の姿とは異なっていく。最も大きな変化は、天皇も皇室も大いに発言するようになったことである。三笠宮皇女の結婚に見られるように結婚という式も庶民と変わらなくなり、その生活感覚は庶民と同じレベルになっている。このことは良いことであると同時に、皇室の大衆化の始まりでもあり、その行く末を案じる声も当然起っている。これからの天皇制は全く新しい形が生まれるのかもしれない。	

開催概要	
時間	受講料
13:00～14:30	18,000円 <small>(一括のみ)</small>

お支払い	
初回の受付でお支払いください。	
教材 <small>※受講の際は必ずご持参ください</small>	
武蔵野書院 『 校注 源氏物語分巻叢書 夕顔 』 中野幸一 編 判型 A5判並製 ISBNコード978-4-8386-0548-4 本体価格 600円 税込価格 660円 ※購入は受講生ご自身で書店に注文してください。 ※武蔵野書院 HPから購入できます。 https://www.musashinoshoin.co.jp/shoseki.html	
定員	お申込み締切り
52名	9月14日(木) 17時 <small>※この日満席でなければ、引き続きお申込みを受け付けます。</small>
受講票	
9月20日頃の発送を予定しています。	

より理解を深めるための 岩坪先生推奨書籍	
『 錦絵で楽しむ源氏絵物語 』 岩坪健 編著（和泉書院/2012）	
『 光源氏とティータイム 』 岩坪健 著（新典社/2008）	
『 ウラ日本文学 ―古典文学の舞台裏― 』 岩坪健 著（新典社/2011）	